



様式第2号（第3条関係）

令和7年 8月 29日

丹波篠山市議会議長 様

会 派 名 福祉と教育
代表者名 向井 千尋
又は会派無所属議員の氏名
政務活動報告書



この度の政務活動を下記のとおり報告します。

記

1. 活 動 の 種 類： 視察調査 ・ 研修 ・ 広報広聴活動
その他（書籍購入 ）
2. 活 動 期 間： 令和7年7月6日（土）
3. 場 所： 丹波篠山市丹南健康福祉センター
4. 活 動 者： 向井千尋
5. 活 動 の 概 要： ・ 医療的ケア者限定グループホーム・短期入所を実践
障がいのある母子が住めるグループホームを開設さ
れた山本智恵子さんの講演会
主催 丹波篠山手をつなぐ育成会
6. 考 察： 別紙参照

費目	詳細	金額	備考
研究研修費	出席者負担金 /	500 /	
合計		500 /	

政務活動調査研究報告書

報告者	福祉と教育 向井千尋
日時	令和7年7月6日(土)
調査研究名	医療的ケア児者支援研修会
開催場所	丹南健康福祉センター
内容	・講演「重い障がいがあっても地域でくらす～医療的ケア付きグループホームを開設して～」 <u>丹波市・丹波篠山市手をつなぐ育成会主催</u> 講師：山本智恵子さん 講師紹介・・・熊本県熊本市在住。熊本市医師会立看護専門学校卒業。准看護師。ボランティアナースの会キャンパス熊本発会。平成28年熊本地震により被災、その後キャンパス熊本が益城町から委託を受け、県下最大のテクノ仮設団地の見守り支援、管理活動を行う。また、障がい児のためのリメイクやオーダー服などのデザインを行う。令和3年「医療的ケア付重度障がい者グループホームファミリン」開設。令和7年9月には2号目を開設予定。 ・熊本地震による災害支援事業を益城町から委託を受けて、仮設住宅見守り支援3年半行った。そこから経営を学んだ。(委託費4000万) ・障がいある人の洋服を作るB型就労事業所を設立。その活動の中で「私が死んだらだれがこの子を見るの？山本さん、この子が安心して暮らせる施設を建ててください。」という母親の思いに心を動かされて、その2年後、グループホーム開設に至った。 ・「合同会社という」では訪問介護、訪問看護、就労継続支援B型事業所、グループホームを運営している。 ・近年、障がい者の高齢化、重度化、多様化など複雑多様化しているが法律が追い付いてない。施設入所は減っている。最も障がい重い区分6の方が増えている。制度や法律の改正には時間がかかるため、まずは現場からの実践しかない。 ・厚労省のデータによると、区分1は81.1%減少、2は69.2%減少、3は57.7%減少、3は33.0%減少、5は4.4%減少だが、区分6は34.5%増加している。 ・グループホームは区分4～6の利用者が占める割合が増えており、今後増えていく。しかし、重度の障がいのある方は本当に地域でくらしたいけるのか？専門的な医療的ケアやいざというときの連携した病院、親なき後の意思決定などの課題が多く存在している。

	・医療的ケアの重度障害者グループホームファミリンは、定員 8 名、ショートステイ 2 名、24 時間看護師が常駐している。グループホームと訪問看護、重度訪問介護を連携的に行っており、日中は看護師 1～2 名、介護士 1～2 名体制、夜間は看護師 1 名、介護士 1 名体制で、行っている。 ・厚労省が母子特化型シェアルームの開設を行う。対象は虐待や養育に悩む母子、精神疾患による養育不足による母子。こども家庭庁のモデル事業に応募し、開設準備中である。 ・生活介護事業で医療的ケア者受け入れるための管理者の質とは何か？(会場からの質問)・・看護師の確保が難しいことは全国的な課題である。コロナ禍で現場から離れたナース多い。医療と福祉違う。福祉のイメージ良くない。病院とは異なり福祉現場では医師の指示下ではなく看護師への責任が大きい。その中で自分のやりたい看護観、福祉ナースを育てていかなくてはならないと考えている。福祉施設をアピールし、メッセージを伝えることが大切である。
考察	・丹波市、丹波篠山市の障がい福祉にかかわる方、当事者、関係機関等があつまり研修、意見交換を行う充実した会であった。講演が終わっていかからも多くの質問があり、参加の問題意識の高さを感じる良い研修会でした。 ・講師の山本さんは、「私が死んだら、この子をだれがみてるのか？」という重度の障がいを持つ子の母親の悲痛から、重度障がいをもつ人のグループホーム開設に至った。そして、現在は、障がいをもった子どもとの母子のシェアルームを国のモデル事業として立上げるために、国会議員と交渉の場を持ち、実現に至っています。 ・丹波篠山市においても、医療的ケアの必要な重度の障がいをもつ方たちが学校を卒業しても安心してくらしていけるための支援体制が未整備であり、今回の研修内容を生かし、行政と民間事業所が連携しながら体制整備を行っていけるよう政策提言していきたいと思います。 ・制度のすきまの人をなんとか救いたい、その想いは日々、議員活動をしていて感じることです。山本さんのスピリッツは原点であり原動力であることに深い共感をしました。

領 収 書 福祉と教育

向井 千尋 様

500 円

「重」障害があっても地域で暮らす
ただし、保護者研修会 ~長瀬町付2階多目的ホールを
開設して~

令和 7 年 7 月 6 日 上記金額を確かに領収しました

丹波篠山市手をつなぐ育成会
会長 畠中 悦子